

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。北前船が寄港したことによってさまざまな生業なりわいが生まれ、直江津のまちは大いににぎわいました。

詳しくは



北前船の船頭、廻船業者、町衆の信仰を集めた神社

八坂神社は、八坂・諏訪・日吉の三神を祀る直江津の産土うぶすな社です。参道には御影石みかげいしが敷かれ、社殿の基礎部分には笏谷石しやくだにが使われています。御影石は兵庫県神戸市をはじめ瀬戸内地方で産出される花崗岩かこうがんで、笏谷石は福井県福井市で産出される凝灰岩ぎょうかいがんです。いずれも、北前船によって直江津まで運ばれました。境内には、尾道（広島県）の石工が作った鳥居など、北前船ゆかりの文化財が点在しています。



八坂神社（西本町4）



御影石が敷かれた参道



笏谷石が使われている拜殿の基礎部分。美しい緑色が特徴的です。

北前船ゆかりの文化財

東にある大鳥居は、尾道の石工が作ったもので、作者の寄居弥七の名が刻まれています。境内には尾道石工作の石灯籠や、筑前（福岡県）の銘が刻まれている狛犬があり、これらは北前船によって運ばれたものと考えられています。また、拜殿には、海上安全を祈願して沖船頭の唯吉郎が奉納した福栄丸ふなえまの船絵馬が掲げられています。奉納年の記載はありませんが、江戸時代後期のものと考えられています。



大鳥居



筑前銘の狛犬



船絵馬（福栄丸）